

下ったあとザイルを出して20mの懸垂下降。登ること  
ならできそう。すぐ大樽川に出る。(記・西和文)

下降開始(11:20) — 赤滝(11:45) — 大樽川  
(13:45)

6. 会津駒ヶ岳・下ノ沢右俣

1978年9月23日

菅野喜吉 萩原宏 尖戸幸務

山菅野喜吉 萩原宏 尖戸幸務  
林道を進み、上ノ沢を渡って少し進んだ所より下ノ  
沢に入る。このころまで少し小雨が降っていた。少し  
行くと砂防ダムが2つ続いてあり、右岸ぞいに道があ  
ったので15分ほどこれをたどる。再び沢にもどって  
しばらく遡行を続けるとゴルジュがあった。先行パー  
ティが右岸をへつりながら通過中であつた。私達も右  
岸をザイルで確保しながら通過。萩原さんがトツブに  
たつが途中で転落。腰まで水に浸る。私も2度ほど足  
をふみはずしたが、水に浸るまでには至らなかった。  
ここを過ぎるとすぐ滝があった。竜門の滝、2段40  
mで、下段を直登。上段は左岸を捲いた。F4 5m  
のすぐ上で先行パーティを追い越す。二俣付には  
残雪があり、ここで昼食の後右俣に入る。水量  
がへり、滝も白糸の滝のよりに細くなった。  
ここより森線のすぐ下まで水は細い流れ  
となって続き、滝も連続してかかった。ヤ  
ブこぎなしで線につき上げたが、駒ヶ  
岳まではヤブの中2時間を要した。

(記・尖戸幸務)

